

日本医療福祉生協連近畿ブロック有志

ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

NO. 10 2011年5月17日

発行担当 ヘルスコープおおさか・白井

生きよう！と思えるように

県南医療生協の組合員さんも点在する山元町花釜地区では、住民のみなさんが生活再建を目指して独自でがんばっておられます。

先日ボランティアで泥出しを行ったお宅へ訪問、ご主人は「自分たちだけではどうして良いかわからない。ボランティアの方たちが来てくれるから、生きよう、と思えるようになった。」と語っておられました。

医療生協の組合員さんはまだ少ない地域ですが、懸命にがんばっている住民の方に対し、医療生協として出来る限り支援していくことが求められている、と感じました。

22日には神戸医療生協のボランティアが来られる予定で、この地区での活動を検討中です。

国の政策が心配



真庭にある坂元中学校跡地の仮設住宅を訪問し、話をおうかがいしました。

入居者は元の地域の人たちばかりなので、コミュニティーづくりはそんなに心配ないとのことでした。

この地域の方たちは農業に従事していた人たちが多く、農地をどう確保して生活を再建していくのか、そのために国がどのような政策を出すのか？ といったことに大きな不安があると語られていました。

森さんお疲れ様でした

8日から現地責任者として頑張っておられた神戸医療生協の森さんが17日で任務を終了し、帰られます。現地としてはもっと居てほしい、という思いでいっぱいですが、なかなかそういうわけにもいかないようです。

今後はヘルスコープおおさかの白井が引き継ぎます。よろしくお願いします。